

講義名	卒業研究
講義コード	44093
担当教員	木村 敏夫
開講期・曜日・時限	通年 木曜日 4時限
備考	

<b>ゼミ</b>
企業財務分析
<b>学部</b>
商学部
<b>学科</b>
経営学科
<b>演習名</b>
木村敏夫

<b>概要説明</b>
<p>3年次の演習時間は「企業会計」の仕組みを理解することと充てた。企業会計の仕組みを理解するには、そのシステムにある記録・計算の技術としての「企業複式簿記」の知識を必要とする。演習以外の時間帯に、サブゼミで企業複式簿記の学習を行った。</p> <p>さらに、企業の財務分析にはコンピュータが欠かせない状況になっている。そこで、演習時間以外の時間を利用して、コンピュータの利用方法も学ぶ。財務情報の多くが、一定の様式で示されることから、表計算（MS-Excel）に入力しなければならない。さらに、企業によって開示されている財務情報をダウンロードし、これも、自己が利用可能なようにするためである。</p> <p>（2年次財務情報・財務報告書の作成の基礎となる会計学の学修をもとに）3年次は、財務報告書、主に有価証券報告書を資料にして、企業を財務の視点から分析する方法を学修する。</p> <p>4年次では、各自で選択する企業の「有価証券報告書総覧」（5年から10年程度の時系列）に示された財務情報、経済専門誌（一般経済4誌に属する、エコノミスト、週刊東洋経済、日経ビジネス、週刊ダイヤモンド）、業界誌（さらに、特定事業の会社に関する専門誌、金融関連であれば、「金融」「金融ジャーナル」等）、新聞・財務データベース等を利用して入手可能な財務資料等に基づいて各自の学習・研究報告を中心に行う。企業の戦略は、最終的に財務情報に反映されるが、企業の評判・評価（環境保護への取り組み、教育・文化活動への取り組み、地域活動・地域活性化への取り組み）が在る。したがって、財務情報以外にも、その背景にある事業展開等をデータベース等から確認する。その結果を卒業論文として集約させる。この論文の作成は、コンピュータの助けを借りて思考支援、計算処理、図表処理等の処理を行う。さらに、同論文にもとづき、卒論報告会にて成果報告を総合的にPC等を利用して「プレゼンテーション」（Power Point利用）する。</p>

<b>学位</b>
経営学修士

<b>教員よりの要望</b>
<p>「知る」ためには鍛錬を必要とする。演習目的を達成するために、2年後期から4年卒業研究に至る学習サイクル、財務情報、財務分析、卒業研究（企業分析事例）を一巡と考え指導する。この学習サイクルを一巡するために、財務情報の仕組みを知る必要がある。3年次前期の演習時間は「企業財務」の理解に充当する。3年次後期の財務分析・企業評価の方法の学修をもとに、「卒業研究」は、各自で選択する「企業」等の財務情報、資料などに基づいて各自の学習・研究報告を中心に行う。その結果を卒業論文として集約させる。と言うのが建て前です。なかなか全課程をやり通すのは難しい。</p> <p>「100年均一の店」でA6、A5ノートを買おう、使おうから始まります。読み、書き、伝える。2年間半で何冊つづすかを試そう（使ったノートは一生活てない）、が演習のモットーです。</p> <p>演習テーマは「会社」を知ろう、調べようです。知ってそうで、知らないかもしれないのが「会社」です。本田技研工業、トヨタ自動車、花王、イオン、7&amp;I、サントリ、アサヒビール、ハウス食品、日清食品、三井住友銀行、りそな銀行等、名前は知っている。「では、どのようなことをしている会社ですか」「そんなの知っているよ」。ほんとうですか、では、皆さんが利用したことがある、ハーゲンダッツ、ミスタードーナッツ、マクドナルド、ロッテリア、不二家、ファミリーマート、AM&amp;P、ユニクロ等、飲んだことがあるかもしれない、ヤクルト、三ツ矢サイダー、コカコーラ、カルピスは誰が生産し、販売し、会社を運営されています（人と言わないで下さい）、知っていると言えるかな。</p>

<b>教員英字氏名</b>
TOSHIO KIMURA

<b>研究室</b>
2704

<b>最終学歴</b>
専修大学商学研究科博士後期課程満期退学

<b>主な研究活動・社会活動・研究業績</b>

<b>主な卒業論文のタイトル</b>
<p>フジッコ株式会社の財務分析  アイフオセント株式会社の財務分析  CSKホールディング財務情報分析  兵庫興信用組合の財務分析  リーマンショックとはなんだったのか  V字回復の本質・日本マクドナルドホールディングス</p>

<b>趣味・特技</b>

<b>所属</b>
商学部経営学科

<b>所属学会</b>
日本会計研究学会、日本マネジメント学会、日本経営分析学会

<b>専門分野</b>
会計学、財務分析

<b>選考方法</b>
面接

<b>担当科目</b>
基礎簿記、経営情報分析、財務分析論

<b>備考</b>
大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」、これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足、学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権

<b>評価方法</b>
卒業論文とその作成経緯